

自分の思いや考えを表現できる生徒の育成

矢掛町立矢掛中学校

教諭 藤澤勝巳

1 研究の概要

政治・経済・情報など様々な国際化が進んでいく中で、ふるさと矢掛町と日本・世界をつないでいくことのできる生徒を育成したいと考えている。そのためには、日々の学習活動の中で、国語・英語を基礎とした言語能力とコミュニケーション力の育成と、その力を活かした行動力を発揮できる場の設定をすることが、国際理解教育推進の基盤となると考えている。

そこで、本校では「自分の思いや考えを表現できる生徒の育成」をテーマに研究を進め、以下のような内容に取り組んでいる。



2 実践事例

(1) 学力向上のための全教科での授業改善の取り組み

- ・目標の明確化・・・その時間の目標を板書する
- ・学習の意欲付け・理解深化・・・ICT（電子黒板，書画カメラ，大判プリンター）を活用して学習効果を高める
- ・自己評価・・・学習について文章表記で評価する

(2) 総合的な学習の時間

①ソーシャルスキル学習

- ・第1学年・・・上手な聴き方，上手な頼み方，相手の気持ちに共感する
- ・第2学年・・・温かい言葉かけ，失敗したときの対処法
- ・第3学年・・・感情のコントロール，受験の面接の仕方

②体験活動

- ・第1学年「矢掛町内の調べ学習」
まちづくり出前講座（農業，税，防災など），調査訪問（町役場，大通寺など）
- ・第2学年「チャレンジワーク14」
5日間の職場体験（矢掛放送，矢掛保育園，コンビニエンスストア，工場など）
- ・第3学年「修学旅行（東京）」
2日目テーマ別研修（国会議事堂，品川アクアスタジアム，ブルネイ・カナダ大使館など）
- ・表現する場・・・電話でのアポイントメント，訪問時の挨拶・自己紹介・取材・写真
テーマのまとめ新聞制作，作文（感想文），お礼状，発表会

(3) 矢掛町・西安市（中国）学生交流事業

- ・学生交流・・・平成11年の来町から開始して，隔年で交互に中学生を派遣する
- ・事前学習・・・中国語のあいさつ，合唱練習，日本の伝統的な遊び，お茶席
- ・交流内容・・・ホームステイ，交流会，中学校訪問，交流授業

3 まとめ

広い意味での学力と日本・世界へつないでいく力をつけるためには、表現力の向上が欠かせない。そのために、全教科でICT機器を活用し、スキルアップに努めている。また、総合的な学習の時間では、訪問先や時間設定，交通機関の利用等を自主的に計画し、生徒の意欲を高め、発表会などの内容を3年間で向上させたい。貴重な西安市との事業は今後も大切にし、最終的には、進路決定や人間力の向上につなげ、校訓「友愛」の目指す国際人を育てたい。